

領域「表現」における音楽指導

＜「保育と音楽表現」の授業報告と主に「手作り手遊び歌」について2＞

中 村 浩 美

Musical guidance in territory “expression”
Class report of nurture and musical expression
It's about “homemade children's song” In the center

Hiromi NAKAMURA

はじめに

平成29年度本学紀要第42号に記載している内容と類似している点もあるが、授業報告を記載するに当たり、周知して頂きたいため概要を再度報告することとした。

本学2年生が受講する「保育と音楽表現」は、幼稚園教諭2種免許と保育士資格を取得するための必修授業である。

この授業は保育者になるために必要不可欠なピアノ奏法・弾き歌い・手遊び歌など、子ども達が大好きな音楽を子ども達に指導するために修得するものである。しかしながらピアノ奏法と弾き歌いは、学生にとって実技として最も苦手意識が高く、練習時間も要する教科でもある。

授業内容は、ピアノ個人レッスンと手遊び歌・季節の弾き歌い・歌唱法の2種類を前半と後半に分かれて、それぞれ45分ずつ（移動時間もあるため正味40分弱）行っている。2年生全人数を3班に分け、1つの班当たり毎年35名～38名程度に分散し、1コマ（90分）当たり15名～18名（今年度）ずつが前半と後半に分かれての授業としている。ピアノ個人レッスンは各教員の指導室で常勤教員1名、非常勤教員8名で行い、手遊び歌・季節の弾き歌い・歌唱法は常勤1名が音楽あそび室で行っている。

音楽あそび室では手遊び歌や歌唱法を交えた季節の弾き歌いを指導しているため、学生が保育者

になるための意識を高く持って積極的に受講できるよう、壁面などを飾り模様も付けて保育室のようなイメージを持てるような工夫もしている。

ピアノ個人レッスンにおいては1年生の時に担当していた教員から、違う担当教員に引継ぎを行い、エチュードの進度や技術面・音楽性によって子ども達が歌いやすいような伴奏法を高めるために個人レッスンを行っている。しかし、授業時間があまりにも短く、一人当たりの個人レッスン時間は僅か10分～15分程度になってしまうのが現状である。手遊び歌・季節の弾き歌い・歌唱法も同じく指導時間に余裕がない。

また、年々音楽の基礎的知識のレベルや理解度が乏しくなっているため、時間を要する事は言うまでもない。このような状況から、年間の授業数や一人当たりの指導時間を考えると授業のみでの指導時間では足りないと考えられる。

学生の授業数と時間割を考えると、とてもタイトでスケジュールに余裕がなく、休み時間や空き時間、放課後の時間を教員と学生間の都合を合わせて個人指導を行うことも多くあることも知っておいて欲しい。

上記に述べた学生のタイトなスケジュールと、授業内容から考える短い時間での指導にご理解を頂けたと思われる。

今年度も音楽領域である「保育と音楽表現」の授業内容、及び、手遊び歌・歌唱法を交えた季節

の弾き歌い、後期に行う「手作り手遊び歌」についてだけでなく、前期よりの授業内容にも触れて後期に移行する流れも報告することとした。

4年前より始めた学生自らがグループで活動作成する、世界でただ一つの「手作り手遊び歌」については、1部ではあるが今年度の学生の完成作品の楽曲、またその活動作成に当たっての教員の指導、学生のグループ活動内容や完成までと完成後の発表、発表時での学生の反応や感想、今後の課題点を記載している。

今年度の履修学生数は102名。

＊Ⅰ班→前半15名 後半18名

(非常勤の先生の都合によって、前半と後半の人数に差があった)

＊Ⅱ班→前半17名 後半17名

＊Ⅲ班→前半18名 後半17名

1. テストの内容と日程

平成30年度「保育と音楽表現」指導スケジュール

①5月1日(火)→4回目・4月26日(木)→5回目

・エチュード

・1年次学習の7曲(生活の歌)

②5月22日(火)→4回目・5月24日(木)→3回目

・①の生活の歌2曲

・実習園の曲を含む季節の3曲

＊テスト後レッスン1回 5月29日(火)・5月31日(木)

課題告知

保育実習と10月幼稚園実習に向けての季節の曲

・夏・秋・実習園の曲

・就職に向けての勝負曲(エチュード・弾き歌い)

③7月17日(火)→6回目・7月19日(木)→5回目

・保育実習と10月幼稚園実習に向けての季節の曲

(夏・秋・実習園の曲等)5曲(勝負曲含む)

・就職に向けての勝負曲(エチュード)

＊テスト後レッスン1回 7月24日(火)・7月26日(木)

夏休み明けの課題

・就職に向けての勝負曲(エチュード・弾き

歌い)

・冬の曲の弾き歌い や いろいろな子どもの歌

④11月13日(火)→6回目・11月15日(木)→6回目

・就職に向けての勝負曲(エチュード・弾き歌い)

・冬の曲の弾き歌い

⑤12月11日(火)→4回目・12月13日(木)→3回目

・季節にとらわれない子どものいろいろな歌

＊テスト後レッスン12月18日(火)・12月20(木)

⑥1月22日(火)・1月24日(木)

・連弾テスト

<前期授業>

1. 授業の導入

授業の進め方として導入はとても大切であることは言うまでもない。この授業に際しては6月に教育実習が始まるため、羞恥心を無くし先生と言う女優になりきるために、「朝の模擬お集まり会」をしている。

この「朝の模擬お集まり会」は子ども達の前でおじけず恥ずかしがらず堂々と話すこと、また子ども達の言葉や反応をすぐさまキャッチしてそれを返すことに慣れるための授業の導入である。6月実習までに全員が「先生役」になれるには時間がないため、1人ではなく2人や3人一組で出欠を行っている。「先生役」ではない学生達は、「子ども役」になって、子どもの心理状況になって返答することとしている。ただ「子ども役」の学生の名前を呼ぶのではなく、子ども達が興味を持てるような工夫をして出欠を取る。

例えば6月実習は梅雨時期なので「カエルさんになってお返事しましょう!」と名前を呼び、カエルになりきった「子ども役」の学生がどんな風に返答したかに対しての受け答えや声掛けもしながら出欠を取る。勿論その時の表情も大切である。終了後にはみんなで「先生役」はどうだったか、良い点・課題点を話し合うことを行っている。

この「朝の模擬お集まり会」を授業の導入として取り入れることが、学生にどう影響を及ぼしているのかを、最後の前期授業の際に今年度もアン

ケートを取ってみた。一部ではあるが感想は以下の通りである。

- *この導入は実習の前に役に立ち是非とも続けて欲しい。
- *対象が子ども達であっても人の前に出ることは同じで、実習園の先生方が見ていることも緊張感に繋がり動揺してしまい、何を話して良いのか頭が真っ白になるため体験していて良かった。
- *ただ名前を呼ぶのではなく、子ども達が興味を持てる内容の工夫や声掛けを常に描いておく必要性を感じた。
- *自分では笑顔の表情でいたつもりだったが、実習園の先生に表情が暗いと指導を受け、授業で指摘されたことがわかり、普段より気をつけるようにしている。
- *「子ども役」の返答に対していつも同じ声掛けになってしまい、いろんな声掛けや反応表現を想定しながら考えておくことが大切。
- *「子ども役」が同級生でもみんなの前に立つこと話すことはかなりのプレッシャーがあり、笑顔がこわばり大きな声も出なかった。
- *羞恥心が思った以上にあったことがわかった。
- *「先生」になりきるこの意味がわかってきた。

以上、ほんの一部の感想ではあるが、100%この導入を取り入れた授業で良かったと答えてくれ、学生個人個人の課題点は何なのかを知る上でも良かったと考えられる。今まで通り今後も導入として取り入れていくつもりである。

2. 手遊び歌について

1年生は「手遊び歌」の授業がなく、12月と3月の施設実習では「幼児音楽指導法」の歌唱指導で使用されている「こどものうた200選」に僅かながら載せてあるものや、図書館で独自に調べて実践しているようだ。しかしながら、「手遊び歌」の正しい知識がなく、音程の問題を含め注意すべき点がわからず、またどんな時に使う「手遊び歌」なのかの理解不足で行うこととなり問題点にあげても良いと思う。

2年生になると教育実習と保育園実習で、子ど

も達が大好きな「手遊び歌」はよく使われるため、授業ではなるべく多くの「手遊び歌」を指導している。

「手遊び歌」はパフォーマンスが主流となりがちで、音程が定まらない場合があるが、音楽の一部であるため音程とリズムは正しく、そしてパフォーマンスははっきりとわかりやすいようにと繰り返しの指導が必要である。

ただし、歌いにくく覚えにくい場合やリズムが難しい場合は、子どもがし易い音程やリズムに大まかではなく少し変えてみるのは良いと考えられる。また、月齢を表示してある「手遊び歌」でも、その月齢だけにふさわしく使われるのではなく、未満児でも手や足、頭や頬などを優しく触れて動かしたりするスキンシップを取りながらでも十分に使える。その時に正しい音程で歌うことが大切になってくる。

授業だけの資料（パフォーマンス付き楽譜）に頼らず、図書館や本屋、現代においてはネットでも調べることができるため、たくさんの引き出しを持っていつでも利用できるよう、自分の宝として保育現場で実用させて欲しい。

「手遊び歌」はどんな時でも使えて、特に子ども達の動向などに困惑した際に助けてくれる一番のものであると言っても過言ではないと思われる。

【授業で取り組んだ「手遊び歌」の楽曲】

- ・キャベツのなかから
- ・あくしゅでこんにち
- ・はじまるよ
- ・小さなにわ
- ・ちっちゃないちご
- ・ねずみのはみがき
- ・とんとんとんひげじいさん
- ・のねずみ
- ・一本ばし二本ばし
- ・魚がはねて
- ・ピクニック
- ・カレーライス
- ・あなたのおなまえは
- ・はみがきのうた

- ・ ミッキーマウスマーチ
- ・ サンドイッチのおべんとう
- ・ なっとう
- ・ 三ツ矢サイダー
- ・ いわしのひらき
- ・ 八百屋のお店
- ・ パン屋さんにおかいもの
- ・ フルーツパフェ
- ・ おちたおちた
- ・ 5人のこびと
- ・ 山小屋いっけん
- ・ いいちょうめのやおやさん
- ・ いちにのさん
- ・ ちょちょちあわわ

3. 子どもの歌・季節の弾き歌いについて

殆どの学生は歌を歌うことが大好きで、授業で指導した楽曲を授業終了後にも口ずさんでいることが多い。しかし発声においての問題点・課題点があることで歌う喜びや自信が失せてしまい笑顔も自然と少なくなるのが現状である。そしてこの弾き歌いで一番のネックはピアノ伴奏である。歌うことへのコンプレックスを抱いている学生や、ピアノ奏法の苦手意識や追いつかず行き詰まる傾向が大いにある。昨今のピアノレベルではピアノ経験が殆どない初心者が入学するため、0からのスタートとでなかなか指導も難しく時間が足りない。特に「弾き歌い」の上達には練習の仕方をピアノ担当教員から指導されていることを素直に忠実に守り、コツコツと練習を積み重ねることが第一である。

歌においては口角から頬にかけての表情筋をアップさせて、笑顔で声のトーンを明るくする。丹田を意識して共に腰筋や背筋、腹筋を使うことも言うまでもない。地声からファルセットに移行しなければ声が思うように出ない学生、ファルセットで統一しないと出ない学生、地声とファルセットを交えたミックスヴォイス、地声で子どもの歌の音域まで出せる学生、と様々であるため、個人的にレッスンすることが一番である。受講する学生の人数や授業時間、授業内容を考えると、

授業内で個人的に指導する機会は極わずかであり、個人的に学生自らがレッスンをしたいと言う傾向は増えている。立って歌うことと座って歌うことの歌いやすさの違い、つまり立った状態で歌う体の筋肉の使い方よりも、座った状態で歌う体の筋肉の使い方の方がより神経を使うこととなる。ましてやピアノを弾きながらではかなり難しいことであり、就職先の現場では時折子どもの様子を見ながら弾き歌いをすることも必要となってくるので、学生にとっては苦痛になってしまうのは当たり前と理解している。

「声」を出すと言うことは体の力を抜き、顔や体の筋肉をどのように使うかで変わってくるが、「歌う」ことの大切さは「言葉」や「イメージ」であると、自らの歌の演奏や学生への指導の仕方を実感している。歌詞の意味を調べて「イメージ」を持つために、その歌の絵を描いて歌詞と言うフレーズの「言葉」を声に出して読むことを必ず行ってから歌うことを指導し、授業内でも勿論そのことを重要視して進めている。学生からもこの経過があって歌うのと、なくて歌うのとでは大げさではなく雲泥の差であるとの意見であった。指導者としても、この経過があってこそその「歌」であることを改めて認識し、今後もこのような授業の展開をしたいと考えている。

【授業で取り組んだ「子どもの歌」「季節の弾き歌い】

- ♪ あめふりくまのこ
- ♪ ながぐつマーチ
- ♪ とけい
- ♪ あまだれぼたん
- ♪ かえるの合唱
- ♪ かたつむり
- ♪ にじ
- ♪ すてきなパパ
- ♪ あめふり
- ♪ ニュニョの天気予報
- ♪ 大きな古時計
- ♪ さよならのうた
- ♪ だから雨降り

♪虫歯株式会社
♪にじのむこうに
♪アイスクリームのうた
♪アイスクリーム
♪おつかいありさん
♪ありさんのおはなし
♪おばけなんてないさ
♪南のしまのハメハメハだいおう
♪ぼくのミックスジュース
♪うみ
♪うみ
♪アイアイ
♪とんでったバナナ
♪とまと
♪しずかなこはん
♪金魚ちゃんとめだかちゃん
♪はなび
♪ほ・ほ・ほたるこい
♪すいかの名産地
♪すいかの名産地
♪キラキラ星
♪大きなくりの木のしたで
♪もりのくまさん
♪やきいもグーチーパー
♪きのこ
♪とんぼのめがね
♪どんぐりころころ
♪まつぼっくり
♪でぶいもちゃんちびいもちゃん
♪赤とんぼ
♪ゆうやけこやけ
♪しょしょしょじょ寺のたぬきばやし
♪いもほりのうた
♪こおろぎ
♪もみじ
♪村まつり

《小打楽器・ピアノ以外の楽器》

音楽あそび室と音楽室には、皆がよく知って使ったことのあるタンブリンやカスタネット、すず、トライアングル、シンバルの他に、フィンガー

シンバルの大中小、ウッドブロック、ギロ、小太鼓、大太鼓、マリンバ、民族楽器など、学生が見たことも触れたこともない小打楽器があり、「村まつり」での歌唱指導の折にいろいろな小打楽器の説明と音の鳴らし方を講義して、学生にも実際に触れて音を出す取り組みを行っている。

学生は子どものように、初めて触れる小打楽器に興味を持ち、音を自ら出すことに喜びと発見を感じている。

この興味をさらに引き出すために、「村まつり」の歌唱指導を経てから、初めて触れた小打楽器や、見慣れ使い慣れている小打楽器も交えての合唱奏を毎年行っている。どのタイミングでどのようなリズムにするかは、学生一人ひとりに任せており、合唱奏の楽しさと達成感を感じ、夏の保育実習と集大成である10月の教育実習に向けての活力や意気込みを持って欲しいと願うばかりである。

また、前期をこの「村まつり」の合唱奏で締めくくすることで、実習への意識が高まり、音楽担当教員としては、実習園に揃えてある楽器も持ち得て音楽に子どもとともに楽しんで取り組んで欲しいと考えている。

＜後期授業＞

1. 実習を全て終えての様子確認と学生よりの感想

学生は8月9月にまたがっての10日間ずつ、計20日間の保育園実習と、2回目となる10日間の10月教育実習を終えて、全員とは言えないが、3分の2ほどの学生はひとまわり大きく成長し、表情も明るくなり、積極性を持とうと言う意識と行動が見受けられる。1年次より表情がなく消極的な学生へは、表には出さないまでも、何らかの成長があり、伸びしろを持っていることを年頭に、待つと言う教育概念も必要と考えている。

学生が実習園での音楽の関わり方をどのように感じたかを聞いてみたところ、保育園実習先では「弾き歌い」をするようにと指導されなかった園も結構あり、学生自らも、「弾き歌い」をさせて下さい。と言う積極的な取り組みが少なかったようだ。ただ、「手遊び歌」に関しては、授業で取

り組んだ楽曲が役に立ち、実習先の先生方が行っている初めての「手遊び歌」にも興味を持ったと言う感想であった。

保育園は特に「弾き歌い」をどの先生方も行うのではなく、できる先生が担当になるケースも残念ながらよく見られ、3ヶ月後には頑張っている2年生が「先生」と呼ばれて「弾き歌い」から遠ざかっていくのではと懸念している。

2年生になって取り組む6月教育実習、8月9月の保育園実習、10月教育実習をそれぞれ終えた際に、「音楽アンケート」に記入して提出することとしている。そのアンケートを次年度それぞれの実習先でお世話になる後輩が参考にして、実習先での「手遊び歌」や「弾き歌い」の練習に励むスタイルをかねてから作っている。

「音楽アンケート」に関しては、実際のフォームと、実習を終えた学生記入のプリントを次回の本学紀要に記載し、考察内容を報告したいと考えている。

2. 子どもの歌・季節の弾き歌い

後期では、教員が提示した「手遊び歌」に取り組む内容の授業をせず、学生自身で既存の「手遊び歌」の楽曲を探し、独自で学習するよう指導している。その際に疑問や完成度の不安を生じた時には、個人的に指導を仰ぐようにしている。

そのため、「子どもの歌・季節の弾き歌い」と「手作り手遊び歌」に時間を要し（特にグループ活動となる「手作り手遊び歌」に時間が必要である）、また、ピアノ個人レッスンでは、連弾授業とそのテストがあるため、各班、前半と後半に分かれての授業が無理となる。つまり、前半と後半の学生が全て揃った上で、二人一組のチームを作り、演奏する連弾曲に取り組めるわけである。

「子どもの歌」「季節の弾き歌い」では、前期で指導した発声法、表情、イメージ力、言葉の意味、情景、ダイナミクス（強弱）方法の意味、曲想、曲と詩をイメージして絵を描くことを再度復習して授業展開を行っている。

【授業で取り組んだ「子どもの歌」「季節の弾き歌い」】

♪めまき

♪うれしいひなまつり

♪たきび

♪コンコンクシヤンのうた

♪こぎつね

*先に述べているが、秋から冬にかけての上記の「子どもの歌」「季節の弾き歌い」も、前期同様、梅雨時・夏・秋と季節の情景や詩の意味、内容の理解、音程やリズムの確実性、曲想、高音部の声の出し方・体の使い方、下降音の注意、口の開け方、口の動かし方、表情筋の意識と使い方など、前期での指導の思い起こしと再確認に、学生も忘れかけていたことを思い出すように、「歌う」と言うことへの喜び、楽しみをさらに持って取り組んでいる様子が伺われる。

3. 「手作り手遊び歌」

「手遊び歌」は子ども達が大好きな保育実技であり、朝のお集まり、絵本の読み聞かせや話を聞く態勢を取らせる時、給食前、晴天・雨天に関わらず教室内で楽しむ時、お帰りの時など、一日の流れの中で様々な時に、様々な「手遊び歌」が保育に活かされて成り立つことも大きい。就職先の現場では勿論、実習先でもたくさん使う必要性があるため、①手遊び歌についての項目で述べているように、月齢やどんな場面で行うのかなどを考慮しながら自分の引き出しを増やすよう指導している。しかし「手遊び歌」は一これでなければいけないと言う訳ではなく、先ほども述べたようにどんな場面でどれくらいの発達状態であるか、そしてその「手遊び歌」を子ども達が楽しめるかによって行うことが大切であると感じ、そうであれば既製の作品に限らず学生達のオリジナルの「手遊び歌」を作ってみてはどうかと言う発想に至った。

題して「手作り手遊び歌」である。

4年程前より後期の授業でグループ活動として取り組んできたが、最初は学生がどんな所につま

づくのか、楽しめるのか、アクティブラーニングとして通用するのか、完成できるのか、発表しあって感想・意見を交換できるのかなど不安ではあったが、どのような作品ができるのかの楽しみもあった。

授業を進めるに当たってまずは学生に基本中の基本である楽典の復習を毎年しており、今年度は前年度までと違い、この基本的な楽典とコード復習を3回の授業に渡って指導した。楽典と言っても極々簡単な決まりごと、ト音記号・ヘ音記号・音符・リズム・調・拍子・楽譜の簡単な書き方など、そして1年次で受講したコードについて。驚いたことに1年次でも読譜、音符の読み方や長さ、書き方など極々簡単な楽典の授業で学習したはずだが、今年度も殆どの学生が覚えておらず、1からの説明を行う必要性があった。また、それと同様に1年次で学んだコードも忘れていた学生が殆どで、この復習も必要となった。

オリジナルの「手遊び歌」が完成するまでには最初の楽典とコードの復習がとても重要であることを、年を追うごとに非常に重く捉えている。

完成するまでにもかなり時間を要することも今までの経験上想定範囲である。今年度の学生は前年度の学生に比べて活動への意欲が高まるのに時間がかかり、アクティブラーニングとしての内容には疑問と、指導者としての反省もある。

3班に分かれての授業でさらにそれぞれの班で前半と後半に分けて行くと、各班各前半・後半の1回当たりの授業時間は45分、ピアノ個人レッスン室からの移動があるため正味40分程度である。前年度の反省をもとに指導内容の再確認と変更した計画で授業をしたが、今年度も短い時間帯の中で授業の進め方への工夫は大変であった。

これらのことを踏まえての「手作り手遊び歌」の完成には、学生達がグループ活動で何を学び、どんな楽しみや喜び、逆にもがきや苦痛を得たかを今年度も知ることができた。ピアノを弾くにはまずは楽譜を見れることが第一であり、そこを大切な基盤として練習をする。しかしこれが譜面を見るのと違って譜面を書くのがどれだけ難しいかは当然と言えば当然である。譜面を読むのは習慣

づいてはいても、譜面を書くこと、特にしたことがない作曲をすることは難題であろう。譜面を書くと言うだけでも必要に応じなければいけないことであり殆ど不必要である。それがしかも作曲となれば大変な苦痛と不安を学生に与えるのではないだろうか。そのことを察して一人での作業ではなく、4.5人を1グループにした活動を行うこととした。

「手遊び歌」を授業や実習先でたくさん学び経験してはきたが、いざ自分達でオリジナルを作るとなると、どこから手をつければ良いのか皆目検討がつかなかったようだ。

4年前には題材(題目・題名)を教員が予め「朝のお集まり」「絵本の読み聞かせの前」「帰りの会」に限定して提示し選択してもらった。調もハ長調のみでコードも必然的にC・F・Gのみとし、拍子は4分の4拍子、と同じように限定して選択しての作業となり、小節も8小節と短くした。

教員が予め提示した形での「手作り手遊び歌」はなんとではなくの作品となったが、学生の反応は取りかかりが難しかったが完成させた達成感を得られたとの感想で、各グループの発表も楽しんでいた。

このように年度を重ねて少しずつ教員の限定する提示の中身を増やしながらかえていき、この「手作り手遊び歌」のグループ活動であるアクティブラーニングを続けてきた。

今年度の「手作り手遊び歌」の授業内容と進行、学生のグループ活動内容、完成した作品、アンケートを報告することとした。

4. 【「手作り手遊び歌」を完成するための導入と説明及び必要事項の指導と連絡】

<基本的な音楽理論・作曲・コードについての説明と復習 授業回数3回>

* 1年次でのコード奏法で学んだ復習

コードの種類→C・F・G・C7・F7・G7・D7・A7・E7・B7・Cm

* コードのメジャーとマイナーの仕組み

* 和音の基本型・第一転回型・第二転回型

* 調の説明→ハ長調・ヘ長調・ト長調・ニ長調・

変ロ長調・イ短調・ハ短調

- * 調号を書く順序
- * 拍子の種類・意味と拍子打ちの練習
- * 各音符の長さ
- * リズムの種類
- * 楽譜は一番左から大切なことが記してあることの確認
- * 楽譜の書き方→大譜表・調号・表紙・繰り返し・復縦線・終止線
- * 調が決まってからの始まりの音と終わりの音の例
- * コードの付け方
- * コードを伴奏形態にする際の例
- * 題材（題名・題目）を決めるに当たって
- * 「手作り手遊び歌」の作品を完成させるための手順→
題材決め（題名・題目）、調の決定、拍子の決定、歌詞作り、メロディー作り、パフォーマンス作り、コード付け、伴奏作り
- * 小節は8小節～12小節までとする
- * メロディーは子どもが歌い易い音域も加味して作る
- * 歌詞作り、メロディー作りはどちらを先に作るかは作り易い方とする
- * 調や拍子を決めて取り組み始めていても、メロディーや歌詞の状況によっては、作り始めていたものに固執せず切り替えて作り直す
- * グループ（1グループ4.5人）での活動なので、一人や音楽が得意な人に任せることをせず、一人ひとりが責任を持ってチームワークを大切に積極的に取り組むことの指導
- * メロディーが浮かんで五線紙に音符を直接書いて進めるのが苦手な場合は、カタカナで音符の名前を書いておき、その後正しい音符に直すことの指導
- * 活動のために必要な鍵盤楽器は、授業を行っている音楽あそび室のオルガン（5台）・キーボード・アップライトピアノを使用
- * 完成するまでの授業回数は4回とし、発表は5回目とする
- * 発表後の提出物と作品の清書の仕方を説明

（教員が準備した用紙に楽曲と歌詞、パフォーマンスを丁寧に清書して、下書きとグループアンケートを含めた3枚を提出）

- * 清書した作品においては、授業外の空き時間にグループ代表者が、教員にチェックしてもらう
- * グループ分けをして「手作り手遊び歌」第1回目の授業までには、宿題として題材を決めておく

（2年生全員を3班に分けての各班前半と後半に分けて4グループ 因みに1グループ4.5人）

5. 【学生の活動内容による状況と教員の指導】

<「手作り手遊び歌」の導入である理論的な内容の復習3回授業を振り返りながら活動する。4回授業以外にもチームで空き時間に活動する。

5回目発表時には、>

- * 「手作り手遊び歌」に授業第1回目ではあるが、事前にグループ分けと題材を決めておくよう指示していたため、アップライトピアノ、キーボード、オルガン3台ですぐに活動が始められた。
- * 歌詞から取り組むグループが殆どで、メロディーから取り組むグループは2グループしかなかった。
- * 取り掛かりやすいハ長調を使うグループが多いため、各グループに取り組み進行中のメロディーを違う調で弾いて聴かせ、どの調が自分達の曲にじっくりいくかを聴き比べる指導をした。その結果、ハ長調よりニ長調の方が合う、または子ども達が歌いやすそう、テンションが上がってくるなど、ハ長調と違う調に変えて取り組み始めたグループが幾つかあった。
- * 殆どのグループは、浮かんだメロディーを五線譜に音符として書きながら取り組んでいくのが難しいようで、カタカナでソソミラソソファファレドレミ～などと、取り掛かりとして階名での書き方を許可した。導入指導で最初から音符を五線紙に書いて進めるのが難しい場合は、カタカナで書いて進めたものを五線紙上の音符に書き換えるよう予め指導していたので問題点としては捉えなかった。しかし、音符をすぐに五線紙に記せないのは、読譜にも弱いことを意

味しているため、以前からではあるが読譜の練習強化が大いに必要であることを今年度も確認できた。

- * 作り始めのリズム形態が四分音符や八分音符の連続、付点四分音符と八分音符の組み合わせ、二部音符など単純であった。導入指導でリズムの説明、リズムたたき、前期で学習した「子どもの歌」「弾き歌い」で取り組んだリズムの復習を行ったにもかかわらず、ノートに写したことのみに満足していたようだった。導入指導での説明を見直すことや、1年生や2年生で学んでいる「こどものうた200選」や「続こどものうた200選」また、図書館で借りられる子どもの歌など、参考にできるリズム形態がたくさんあることに気づき、自分達の曲にも取り入れる活動ができなかったのは残念であった。各グループ活動の指導時に、リズムの種類や参考資料として「子どもの歌」「弾き歌い」の楽譜を再確認するよう厳しく指導した。昨年度も同じようなことが見られたため、反省点を活かすべく導入指導をしたのだが、次年度はさらに導入指導のあり方、指導方法を考え直すこととする。大きな課題点である。
- * ピアノが得意な学生がオルガン、ピアノ、キーボードの椅子に座って弾き始め、他のメンバーが浮かんだメロディーを口ずさんだり、パフォーマンスを考えたりしていた。
- * ピアノが得意な学生が主となって進めているグループもあれば、ピアノは苦手でもアイデアやひらめきが湧く学生が主となりながら、ピアノは弾ける学生が担当していたグループもあった。
- * 一人ひとりが同じ責任を持って活動することが完成にたどり着くことと指導しているが、グループ内で積極的に取り組むことができず、消極的で外から見ていただけに関われない学生が目についた場合は、グループ内での協力を重要視しながら活動するようにと厳しく指導した。その指導によってか、次の授業での活動には気持ち切り替えて少しずつ意見を出し積極的になろうと努力していた。
- * 子ども達とどんな場面で行いたいかのイメージ

を持って歌詞を作っていた。

- * 4分の4拍子が多く、学生は4分の3拍子や8分の6拍子はゆったりになりパフォーマンスが難しく、子ども達も乗りにくいと思うと話していた。前期で学習した既存の曲では3拍子型や8分の6拍子はなく、殆どの曲にその拍子は見られない。そのため、学生が作りにくいと言うのは当然である。しかし、幾つかのグループには4分の4拍子より3拍子に変えることで思い描いているイメージに近くなることや、途中から違う拍子を変えることで曲の表情が豊かになるとの強いアドバイスではない指導をしたことで、学生もそのアイデアに賛同して作り変えていた。ラストにリズムカルに終ることでテンポ感の変化ある作品になるのではとも指導した。
- * 歌詞で悩み、内容も薄く短い曲になっているグループには、どんな場面で使いたい「手遊び歌」なのかを再度話し合うこと。授業で使っている「こどものうた200選」などからリズム形態を参考にして、今取り組んでいる作品から新たな作品を作り上げるよう指導した。
- * 既存の「子どもの歌」や「手遊び歌」が耳から離れずなかなか取り掛かれず悩んでいたため、鍵盤を使ってたくさんの音の組み合わせを試してみても指導した。また、既存の曲を一部取り入れながら音の変化させることも一つの方法としてアドバイスした。
- * 全体的に隣の音、つまり全音上か全音下に進みながらそれが続いてしまう傾向があった。次のおとへの移行の際に、3度上がって1度上がったたり下がったりのメロディー作りには抵抗があったようだ。
- * 左手の伴奏となるコードが何かを迷って、旋律であるメロディーにある音を根本に、コード和音をさぐっていた。この取り組みは良い傾向で、合う和音が見つかれば基本型の和音に直してコードを思い出す取り組みのヒントを与えた。また、基本型だけで進行すると、和音が飛んで弾き難くなることと、自然な進行に聴こえなくなるため、第二転回型や第三転回型を使用すると音の運びや伴奏としての和音の響きが良くな

ることも指導した。コード和音を基本に、分散和音や他の伴奏形態にするのも楽しい曲となることを実践した。

- *授業時間内でどんどん進み完成に近くなっているグループと、進み具合が遅く授業時間内ではなかなか先に行かず考え込んでしまうグループとに分かれてしまったが、進度が遅いグループは特に空き時間や休み時間に集まって取り組んでいた。
- *グループ全員で全てを考えている場合、考えやイメージがストップしてしまうことがあったため、そのまま次回の授業に持ち越すのではなく、それぞれに題材に見合った歌詞やメロディーを考えてからそれを持ち寄り、各々のアイデアを組み合わせることも一つの方法と指導した。
- *下書きではあっても、楽譜を書くと言うことにかなりの抵抗があり四苦八苦していた。活動中にリズムや音符の書き方を指導することは毎時間であった。
- *最初の取り掛かりに手間をとり悩んでいるグループが半分ほどいたが、次第に独自のメロディーが頭に入りパフォーマンスを楽しんでいた。
- *音楽あそび室には全身が見れる大きな鏡があるため、その鏡を利用して、パフォーマンスの出来具合を確認していた。

6. 【各グループの完成作品の一部紹介】

1. ~~班発表~~ <サンタさんがやってくる> (12月やクリスマス会など) 6名

桐田 莉帆
小林 愛莉
齊藤 美鈴
佐藤 希里奈

ピカピカツリーに てがやもつけて
プレゼントのせて すすむよそりは リンリリリン シャンシャンシャン レーろい おひげー
おおさいからだ サンタさんがやってくる ホホ ホホ ホー

① ピカピカツリーに てがやもつけて
② プレゼントのせて 袋に束ねる
③ すすむよそりは うでを大きく振る
④ リンリリリン シャンシャンシャン 鈴を揺って鳴らす
⑤ レーろい 人差し指と親指を顔に 近づける
⑥ おひげー 両手でモコモコにする
⑦ おおさいからだ うでを回して腰に手を当てる
⑧ サンタさんがやってくる
⑨ ホホホホー

1 理髪後 長崎探険隊

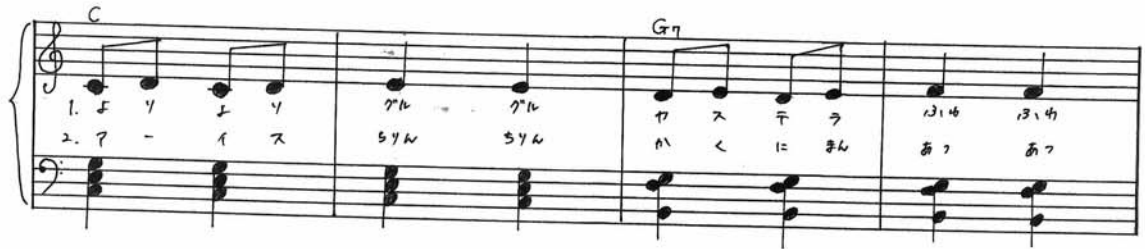
おやつ前

197802 井手 亜美

197806 菅原 優奈

197803 若木 望

197822 上島 愛加



① ばくたちゃ ながさき



② たんけんすい



③ きょうはなにをいふべからぬ



④ 〇〇〇 (おたけのうた)



⑤ ぐるぐる (よりより)



⑥ ふわふわ (カスサ)



⑦ つるつる (おれん)



⑧ ちりちり (アス)



⑨ あちあち (かくいまん)



⑩ あまあま (おれ)



⑪ あ〜お〜い (おれん)



No.1

Ⅰ 班後 **＜ しりとり名人 (2人組の対決) ＞** **（ 活動の前、しりとり導入前 ）** **名** ^{17YA05 尾崎秀吉} ^{17YA15 横藤聖臣} ^{17YA25 谷口奈々}

ぼくらは しりとり めいじん さ

たべもの さがしに ぼうけん だ

ケー キー こん びー キウ イ
ブルッキリー

い か りんご あめ かまぼこ めるん
あれ？ こんどおわかんない！

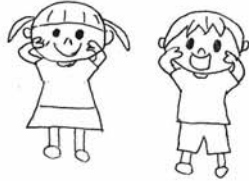
？ き は どん ぽ めいじん なるうか

① ムクムクオーン! オー! それぞれ
外側の手を上に突き上げる



♪ (前奏) イエイ、オー

⑤ 右、左の順に手の平を口の横にパカク ⑥ 右、左の順にめがねを作る



② 右、左の順に親指で自分を指さす



♪ ぼくらほ

③ 右、左の順に手をのびしめをつけ



♪ しりとり

⑦ 手足を振り上げてその場で動く



④ 'めいじん'でそれぞれ外側の子をく
と回して「さ」でキラッヒホース



♪ めいじんさ

⑧ リズムに乗って横ゆれする



♪ たばもの

⑨ 右に立つ人が左手は皿を右手はナイフを表し
ケーキを食べる動作をし左の人にパントンタッチする



♪ さかづしに

⑩ 左に立つ人がクワシを指さし作り
右の人にパントンタッチする



♪ ケーキ

⑬ 右側の人が、手を上げてこんぶのよ
うに動きをし、左側の人にパントンタッチする



♪ こんぶ

⑪ 右側の人か、いかにの脚を表し左側の人
にパントンタッチする



♪ いか

⑮ 右側の人か頭の上で文を作り左の人
にパントンタッチする



♪ りんごあめ

♪ (間奏・音に変化)

⑫ 左の人か、(あ)に手を当て右側
の人にパントンタッチする



♪ かまぼこ

⑬ 2人で「メロン」と言いながら大で
れを作る



♪ めろん

⑯ 右側にいる子どもが手をぐるりと回し
て上でキラッとする



♪ つぎは

⑭ 左側にいる子どもが手をぐる
と回して上でキラッとする



♪ どんな

♪ 「あれ?ん」で「おわあせつへ!」

② それぞれのキラッとしておわあせつへ!と回す ② 首をかしげて悩むポーズをとる



♪ めいじん、イェウ

♪ (間奏・音に変化)

② 首をかしげて悩むポーズをとる



♪ かへた

<しりとり名人~手遊びポイント~>

- ・2人組で行う手遊びである為、友達関係を築く上でも使うことができる
- ・手遊びがしりとりになっている為しりとりを覚え始める年齢頃から出来る
- ・しりとりを導入などにも使える
- ・今回は「食べ物」のしりとりだが乗り物やキャラクターなどアレンジをすることで様々な楽しみ方ができる
- ・体全身を使っている振りである為、体全体で楽しめる手遊びである

1 班前後 in Nagasaki

(活動前気持ちを上げる時) 金手、神谷、木崎、木下

な げ ば し よ と な げ ば し よ と カ ス テ ラ も な が ば い あ か り に い か ば たい

あ た は な げ ば し た ね スー スー すー スー スー すー あ た か ち ば たい

な が さ き せ じ ょ ぐ ち と た と 近 じ の あ り や う か

め が ね ば し (め が ね ば し) へ い お こ う え ん (へ い お こ う え ん) い は せ や ま (い は せ や ま) で じ ま (で じ ま)

う た ち な が さ き ガ ー ル ス た い

① 拍手



な げ ば し よ と

② 円舞曲



カ ス テ ラ も な が ば い

③ 指差し



あ っ !

④



あ り に 行 け ん だ

⑤



あ た は

⑥



反対モ

食 べ た か ね

⑦



反対モ

涙 を イ ャ ー

スー スー すー

⑧



あ た か ち ば たい

⑨



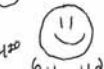
食 べ た か ね

⑩ 拍手3回



長 崎 よ か ね

⑪



カ ス テ ラ

99 カ ね

⑫



あ た か ち ば たい (あ た か ち ば たい 同 様)

⑬



め が ね 橋

⑭



平 和 公 園

⑮



利 根 佐 山

⑯



出 島

⑰



う た ち 長 崎

⑱

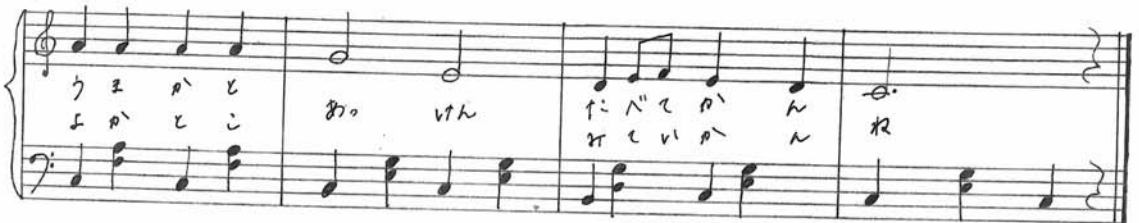
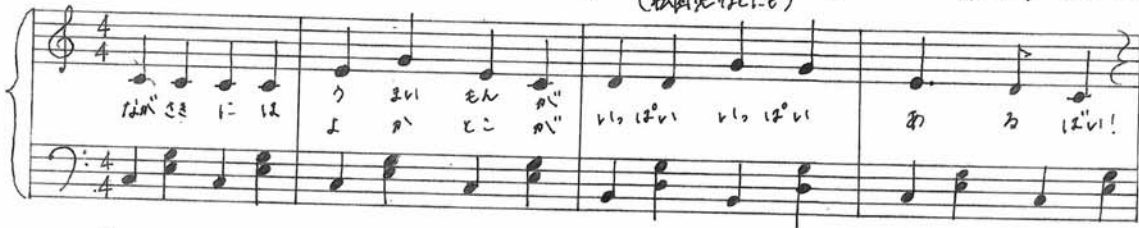


カ ス テ ラ

I 班前 よかばい長崎!

> (長崎のことを教える時
(転園児には))

宇野舞弥・新室純奈
中尾天音・野口桃子



ながさきには



うまいもんが



よーかーとこが



いっぱい いっぱい



あーるばい!



カステラ



チャンポン!



皿うどん



めがねばし



平和のシンボル



稲佐山

曲の1番は○を見て
2番は□を見て下さい!



いっぴい



たべてかんね!



おーい!



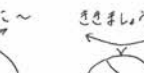
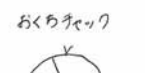
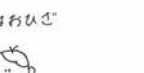
うまかとあっけん



よかとこあっけん



見ていかんね!

あつまれ あつまれ  おいでおいでと 手くばを曲げる	サーンズ  両手で上から下へ 円をかくように	しょうのおはなし  右手を口にごりて 次に左手を口にごりて	はじまるよ  ハチやチハチと 手をたたく	顔にかな 顔にかな  右から見えるほうへ 次は左も同じように	ワクワク ワクワク  両ひじを上下に ゆらす
たのしみに  下から上へ両手をひき寄せながら 円をかくように一周させる	～間奏～  ズンチャックのリズムに 合わせて左右にゆれる	しすかに～  口に指を当て 左右にゆれる	きこまじろう  鼻に手を当て 左右にゆれる	おうちチャック  右手で口に チャックをする	てはおひび  両手をひきよめて ちぎっていく

[illegible]

2 班 市役 仲さあそび

外遊心の前
雪の架いさる仮えたい時

板井 中葉・松尾 美樹
宮本 紹次子



さむいの に た ん で そとに での の が た

せればたのしい 仲さあそびが できるか ら

おおきいの つくろう 仲さあそび スイススイスなろう スキー

おんがでつくろう か まくら さいごは おんがで 仲さがのせん

①右 ②左

ふるえる

①右 ②左 ③右 ④左

手拍子 7回

キラキラさせながら 上から下へおろす

手拍子 5回

おおきいの つくろう

頭のていつから 円を描くように

仲さあそび

手

①右 ②左 ③右 ④左

スイスイススなろう スキー

みんながで つくろう

"w w"

手招き

かまくら

頭のていつから 円を描くように

さいごは おんがで

"w w"

手招き

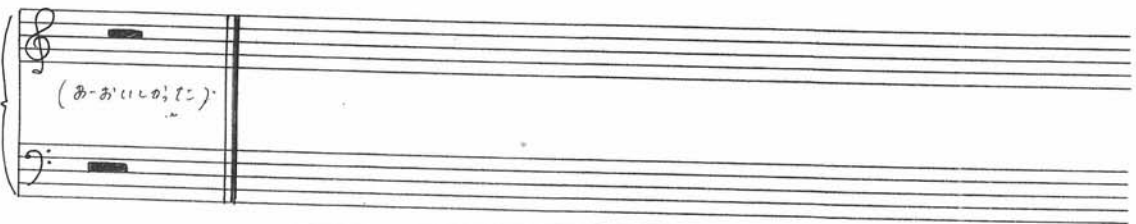
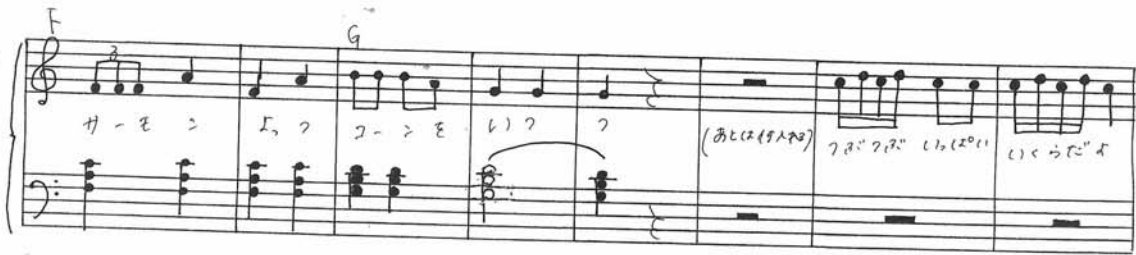
仲さがのせん

投げた動作

Ⅱ ~~班前~~ 後 海鮮丼

> (空き時間) <

17YA35 木田希歩
17YA39 女臣里子玲奈
17YA45 松本夢夏



ごはんを



入れと



たまごを



ひとつ



えびを



3つ



まぐろを



5つ



サーモン



4つ



コーンを



5つ



7ぷっぷっ
いっぱい



いくらだよ



あー
美味しかった!

Ⅱ 理直後 はじめまして

（新学期や新しいお友達が来たときにすべし遊び）

針師 山崎 莉

1. いろいろ
2. おどけ
3. 手遊び

はじのまして おなまえをい
やあ よろしくね
なかよくあそびま
しょう

① はじめまして	♪ おなまえ 大書きないう	♪ なあに なあに	♪ ○○○ ★に返る ○○○	♪ やあ ♥ やあ	♪ よろ
(おどけをする)	(両手をあごにあてる)	(両手をあごにあてる)	(両手を肩にあて、おどけをきょうに)	(両手を大きく広げる)	(中サウ外に円を描く)
♪ しく ○	♪ ね ♪に返る ちせん	♪ なかよく	♪ あそびま	♪ しょう	
	(両手を大きく広げる)	(両手を胸に)	(両手を胸に)	(両手を胸に)	
					おわり

II 誕生日ケーキをつくろう (誕生日の子どもらいる日のお祝いをする時)

17YA38 東山 梨奈
17YA43 松尾 志保
17YA49 山口 あいり
17YA51 山村 結衣

さよう は

〇〇ちゃん の たん じゅう びー みーんなで ケーキを

つくりま しょう (みんな準備はいい?) (はい) ハーイ!!

スポンジ ふわふわ、ふわー クリームたくさん のせてー フルーツかざりま

しょう いちご みかん パーイナップル ふんふん、ふんふん

ろうそく たてて (まーでさあ、リリー!!) 〇〇ちゃん お誕生日 くん おめでとう!!

今日は〇〇ちゃんの誕生日
皆でケーキをつくろう



顔の横で手を回したります。
左右くりかえします。

♪間奏

ここで...

みんな準備はいい??

「はい!!!」

なびの会話があるところ
他にも自由に声をかける時間にも
できます。

2) ♪スポンジ



体の前で大きな輪をつくります。

フワフワフワフワ



ケーキのうごきまわりくりかえします。

♪クリームたくさんのおて



頭の上で三輪をつくり
左右にゆれます。

♪ (30秒) ね、ね

3) ♪フルーツかざりましよう



頭の横から上から下へ
キラキラキラ☆

♪ ゐん ゐん ゐん

4) ♪パカパカ



右手で「いち」のゆびをつくり、
左手で「ご」のゆびをつくりま。

3) ♪ろうそくに

5) ♪おめかし



両手で「さん」のゆびをつくりま。

6) ♪まー、でさあ、リ



両手を体の内側にむかいてまわして
まにまにま。



顔の横で「はち」をつくりま。



は、ハ、をう回

タッタ!!



両手で「いち」のゆびをつくらうそくに
見えます。

2 到着前準備 < はじまるよ > (活動前の導入) 馬場・前田・増崎

① はじまるよ

 両手を大きく回して、広げると同時に、左足のかかとを床につけてつま先をあげる。

② はじまるよ

 ①と同じように両手を大きく回し、広げると同時に右足のかかとを床につけてつま先をあげる。

③ いまから いまから

 足踏みをする。

④ はにしょうか

 考えるポーズをする。

⑤ おははし

 右手を月歯にあてて、左足のかかとを床につけてつま先をあげる。

⑥ えはん

 両手を目の周りに持ってきて、見るポーズをする。

⑦ おうとうにお

 両手を口の周りに持ってきて、食べるポーズをする。

⑧ みんながあつまれは

 左右の手を月歯の前で交差して、両手を広げて隣の人の手と繋ぐ。

⑨ たのしいことはじまるよ

 隣の人の手と繋いだまま、左右にゆれる。

2 班 市役 ~~おいしいハンバーグ~~ (ご飯の前や時間がある時) ~~ハ~~ 井手日菜子
岩永ひなの
宇野有紀
※ラップ調

たまねぎたまねぎトントントン たまねぎ いためて パッパッパッ たまねぎを いためたら
ひき にくと あかせましよう こねて こねて パッパッパッ こねて こねて パッパッパッ
フライパンを よいして やきましよう ハイ にく じる ジュワッ
にく じる ジュワッ くんくん (X)におい (X)におい
こけめ が ついたら (はい) できあがり パッ

たまねぎ たまねぎ トントントン たまねぎ いためて パッパッパッ たまねぎを いためたら
ひきにくと あかせましよう こねて こねて パッパッパッ
フライパンを やきましよう ハイ! に く じる ジュワッ
「にく じる ジュワッ」×2
「くんくん (X)におい」×2
こけめが ついたら ハイ!! できあがり パッ

Ⅱ 理市校 おでん

準備運動
・縦横おでんの時

197807 197810 197
岡部若乃, 尾崎亜梨紗, 数寄

いまから おでんに はぁ ちゅう よ たべたら ほかにほか あ、 たか い

おやあや たまごが あっから はんぺん ち てき たquarter みんたで たまごに は て みよう
あっから はんぺん ち てき たquarter みんたで はんぺんに ちくわに
じんじん だいこん だいこん だいこん ちくわに ちくわに
4回リピート Coda

30ン ペロン 7ー 30ン ペロン 7ー 30ン ペロン 7ー

はんぱ じゅうすに てきにか ぽ?

※赤い5音の歌詞
※5音を頭い終わ-1-5. To から Codaへ

今からおでんに なっちゃうよ 食べたら あつたかい たまご おやあや たまごがやってきた みんたで たまごに なってみよう コロン コロンお

手を反ら 食べる動作 ほった 探す 両手をふる 左手をあげる 両手をくく 左右にゆらす

※ 繰り返し

はんぺん あっから はんぺんやってきた みんたで はんぺんに なってみよう ペロンペロンお

指をこす 両手をふる 左手をあげる 両手をあげてゆらす

※ 繰り返し

ちくわ あれあれ ちくわやってきた みんたで ちくわに なってみよう 7ー7ーお

探す 両手をふる 左手をあげる 手をかきまわす

※ 繰り返し

だいこん じんじん だいこんやってきた みんたで だいこんに なってみよう ドンドンお

足はぶき 両手をふる しゃかぶき おなか 両手をあげる 足はぶき 肩をくんでゆらす

おんな友達 やってきた おんな友達と一緒に おどろきしよう

手をくんでゆらす

たまご はんぺん ちくわ だいこん みんた上手に てきたかな?

おもく 両手を上げてゆらす 手をかきまわす 足はぶき 両手を上げて回る

2. ~~班前~~ おかえりおしにく > 降園前のひととき) 上川、河本、口石、木場

降園前のひととき
荷物の確認をする時の
手遊び A

D A D A

おかえりおしにく ぞきたかな みんなでいっしょに みてみよう

D A7

1. ミールちやう 2. ぼーらしー あるよ 1. おべんと 2. あいとうー あるよ

D A7 D

1. はーぶらーしー 2. かーぼーんー あるよ さあ かえりま しょう

♪おかえりおしにくぞきたかな？ 	♪みんなであいっしょに 	♪みてみよう 	♪ミール帳 	♪あるよ 
♪おべんとう 	♪あるよ 	♪はぶらしー 	♪あるよ 	♪おかえりましょう 
♪おかえりおしにくぞきたかな？ 	♪みんなであいっしょに 	♪みてみよう 	♪しょうしー 	♪あるよ 
♪あいとうー 	♪あるよ 	♪かぼん 	♪あるよ 	♪おかえりましょう 

[illegible]

① 1) 左から右へはかきつけます



2回手を交す

② 左から右へはかきつけます




右目に右手を当て
右目に左手を当て

③ 乙を



両手を前に

④ 1) おおむねにあらわす 2) おおむねにあらわす 3) おおむねにあらわす





両手を胸の前で交す
両手を目の横へ
両手を口にあて

⑤ 1) 左から右へはかきつけます 2) おおむねにあらわす 3) おおむねにあらわす





左から右へはかきつけます
右目に右手を当て
右目に左手を当て

⑥ 1) 左から右へはかきつけます



両手を両手にあて

⑦ おおむねにあらわす



両手を大きく回す

⑧ 1) おおむねにあらわす 2) おおむねにあらわす




右、左、右に目の横へ手を
持っていく

⑨ おおむねにあらわす




両手を大きく回し
両手を目の横へ

⑩ 1) おおむねにあらわす 2) おおむねにあらわす




両手をくわいの形にし
その下に両手をあて

⑪ おおむねにあらわす



両手を合わせ

⑫ 1) おおむねにあらわす 2) おおむねにあらわす



左の手に右手の指を
あてていく

⑬ おおむねにあらわす



両手をくわいの形にし
その下に両手をあて

3 理前 いろんどうぶつでくるよ (活動前) 172B22 田川 麻衣
27 戸村 胡文
43 三浦 夏木
50 山本 くら

(1)	おめ	さん	さん	さん
(2)	おめ	さん	さん	さん
(3)	おめ	さん	さん	さん
(4)	おめ	さん	さん	さん

1 手を招きをする
☆ あつまれ あつまれ
動物ごとに動きを変える
5-1 ()
☆ このどうぶつは(うさぎ)
考えるポーズをする(左右交互)
6
☆ だれかな だれかな
10
☆ うやがや

2 手を叩く
☆ 〇〇ぐみさん
5-2
(さる)
7 手をぐるぐる
8
☆ ビョンビョン
(8~10) ・ウッキ
・ニャーニャー
・ボンボン ポンボン

3 手をキラキラ上から下へ
☆ いろんどうぶつ
5-3
(ねこ)
9
☆ ビョンビョン
キッキ
ニャーニャー
ボンボン ポンボン

4 手ひのぞきこむ
☆ でくるよ でくるよ
5-4
(たぬき)

5-1 ~ 5-4 の動物ごとの動きをする。

– 58 –

3 班前後< まつり > 17YB20 豚崎透香
28 耳月来果彦
36 平野優香

え ら い や っ ち ゃ え ら い や っ ち ゃ よ い よ い よ い よ い き ょ う は た の し い お ま つ り だ
ふ わ ふ わ わ た が し き ん ぎ ず く い み ん な い っ し ょ に そ れ わ っ
れ い



3 料理前 ~~後~~ くじもの > (給食(お昼ごはん)の前) へる

17YB41 木公田 莉奈
42 木公本 春葉
44 宮崎 香羽

① ★1 くじもの イニベエリ
くじもの イニベエリ

★2 なんじかな?

いちごいちご
つるつる いちご
(手話)

きんぎょいせくちで
(ポッかん!)

② くじもの イニベエリ
くじもの イニベエリ

★1

★2 なんじかな?

いかにいかに
おききいかに
(手話)

おききいかに
(ポッかん!)

③ くじもの イニベエリ
くじもの イニベエリ

★1

★2 なんじかな?

きんぎょいせくちで
かわつるつる (手話)

かわつるつる
(ポッかん!)

④ くじもの イニベエリ
くじもの イニベエリ

★1

★2 なんじかな?

きんぎょいせくちで
かわつるつる (手話)

かわつるつる
(ポッかん!)

3 ~~班前~~ 雪だるま No. 田口. 米山. 野中. 長

> (雪だるまの製作前)

8va

1. ふゆも たのしく あそべる よ
2. なにを し て あそぶ が な

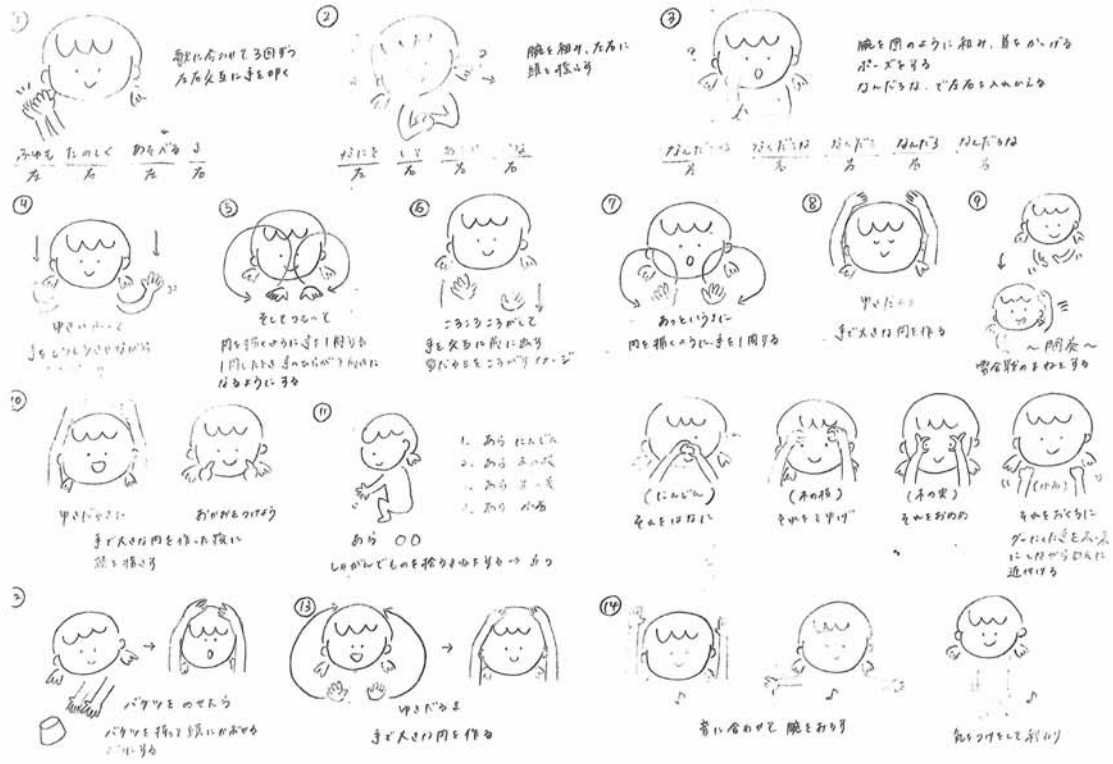
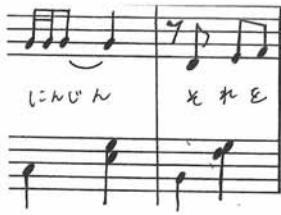
なんたう な なんたう な なんたう なんたう なんたう たん ゆき が ふ、て そしこつ

も、て ころころ ころがして あ、と いうまに ゆき だる

ま

2. ゆき だるま に おがおもつけ よ あら

No.



7. 【手作り手遊び歌のグループ発表】

（発表授業の前に5分間、仕上げ練習の時間を与えてから本番発表を始めた）

- *どのグループも笑顔で楽しく発表できていた。
- *自分達で作った作品なので曲においては音程がしっかりしており、何を歌っているかもはっきりわかった。
- *パフォーマンスにも工夫が見られて、子ども達が楽しめそうな発表であった。
- *見ている学生も楽しそうで終始笑顔であった。
- *他のグループがどんな「手作り手遊び歌」かに興味津々であった。
- *お互いのグループ同士で褒めあっていた。
- *発表するグループは、見ている学生に子ども役になってもらい、発表の「手作り手遊び歌」を教え伝えることができた。
- *前期授業で指導した初めて習う「手遊び歌」の子どもへの教え方が活かされていた。
- *拍子の変化で題目に即した曲になっていた。
- *3拍子の曲は「あたたかさ」を感じられ、ほのほのしていた
- *各グループとも、何を目的としてどんな曲にしたのかの話合いがなされていた
- *昨年度は「動物」をテーマにした曲が目立ったが、今年度は幅広く、「お花」「しりとり」「おまつり」「おやすみ」「おはなしの前に」「おでんになる」「ファミレスお子様ランチ」「ゆきあそび」「長崎めいぶつ」「海鮮丼」「おかえりおしたく」「ケーキをつくろう」「長崎たんけんたい」など興味深かった。
- *どの班のグループもこれまでにない笑顔で発表を楽しみ満足していた。
- *覚えやすいメロディーのグループ発表では、観ている学生もすぐに覚えていた。
- *間奏や後奏にもグリスサンドや装飾音符を用いて工夫していた。
- *パフォーマンスに合わせて強弱・ダイナミクスも用いていた。
- *子どもの音域としては少し高音で終るのが惜しかった。
- *絵を用いての工夫があった。

*長崎の名物や良さ、方便を使っていた。

*「なんだろな？」のフレーズが続いてあり印象に残り易かった。

*「しりとり」を考えての歌詞作りと曲作りは初めてであった。

*長調から短調への移行は曲の雰囲気に変化とメリハリがあった。

*間奏中、子どもへの質問形態があることで、先生と子どもの一体感を想像できた。

8. 【清書提出の確認指導】

完成して楽しく発表も行い、学生はみんな満面の笑顔でその楽しさに浸っていた。しかし清書を提出するに当たり、その清書が正しく書かれているかの確認をした際、導入や活動時間時に指導した楽譜の書き方を忘れていたグループが殆どであり、訂正が大変多かった。清書チェック時で指導したヶ所も、提出後に確認したところミスがあるグループも幾つかあった。完成して発表する時には耳で覚えて発表している傾向が強いと思われる。やはり基本的で簡単な楽典・ソルフェージュの指導強化が必要なのではと考える。次年度も時間的な余裕がないことはわかっているが、是非とも「手作り手遊び歌」での導入であるコードや楽典の復習をしっかりと指導したい。

おわりに

2つの内容を前半と後半に分けて行うこの授業で一番感じることは、とにかく授業時間が足りないということである。前半と後半それぞれ45分ずつと言っても、教室の移動時間や教員が学生に指導する際の区切りの関係も加味されて時間的な余裕が殆どないのが現状である。

「手作り手遊び歌」の学生活動も、授業内のみでは完成・発表することはとうてい無理である。しかしながら学生に世界でたった一つの自分達が作った、手作りの「手遊び歌」の完成過程までの活動や（アクティブラーニング）、完成した時の達成感や喜びを感じて欲しく、授業以外の時間にも活動を強いてしまったところが今年度もあった。学生もタイトなスケジュールであるため、

なかなか時間が取れないのは理解しているのだが、1回40分弱の授業で「手作り手遊び歌」の導入（1年次で学習したコードや現在進行形の基礎的楽典）を3回、実際の取り組み・活動と指導を4回行い5回目で発表はかなり厳しかった。しかし、昨年度は2回の復習導入、3回のグループ活動（授業外の活動を除いて）、4回目で発表だったため、時間的な意味では少し余裕があったと思われるが、その学年の積極性を含めた性格、音楽的な素養、音楽基礎理論の把握レベルなどが影響してくる。

独自のグループアンケートを取ったところ、世界にたった一つの自分達が作った「手遊び歌」を完成させられ発表できたことはとても楽しかった。と100%が答えてくれた。取り掛かりが難しく途中でもスムーズに進まない時もあったが、最終的には楽しく取り組み発表でき、さらに他のグループの発表も観れて学ぶことが多かった。そして楽しかった。また次年度も授業に取り入れた方が良いとの意見も殆どであった。

今年度は「手作り手遊び歌」が「子どもの歌」になってしまう作品もあり、指導の在り方、完成する際のルールを簡単にするなどの見直し点が多くあった。また、「手作り手遊び歌」に限定せず、「手作り手遊び歌・体遊び歌」と、手に限らず体全体で表現する方向に変えてみることも望ましいと考えられる。

今年度の課題点を謙虚に受け止め、学生との信頼関係を築きながら授業内容の研究を今後とも続けて邁進していきたいと考えている。